

「地域を愛し、自分で考え、自分で行動する子ども」を育てる コミュニティ・スクール 通信

令和2年度 第5号 10月6日

日の里学園コーディネーター 北岡 隆特



ウォールアート・プロジェクト

9月26日（土）に、国道3号線の高架下の壁面に、日の里中ボランティア生徒約40人や福岡教育大の大学生が、地域の方々の支援を受けて、色鮮やかな壁画を一日がかりで完成させました。

デザインのモチーフは、宗像市の世界遺産の沖ノ島、玄界灘で行われる「みあれ祭」、宗像市の花「カノコユリ」、日の里団地の様子などで、いずれのデザインも原画は日の里中美術部員が考えたもので、宗像市のゲートウェイにふさわしいモチーフだと思います。

朝9時ごろはライトブルーとブルーの2色だけの壁【写真右上】でしたが、次第に色付けが進み【写真右中】、夕方4時過ぎには壁画が完成しました【写真右下】。

このプロジェクトは、そもそも青少年指導員の柳瀬さんの発案で、それに賛同する多くの人々の協力を得て立ち上がりました。コロナ等の影響で計画が延期され、約1年かけて実現したものです。3号線に行かれる際は、ぜひ中学生の力作をご覧ください。



フェンスのデザイン画の提案

9月29日（火）に、日の里西小と日の里東小で、団地再生が進められている日の里東小学校前のフェンスに描くデザインを提案する会が行われました。

両校の6年生の児童たちは、各体育館で、宗像市の都市再生課の人や日の里地区の人、都市再生に関わる企業の人などに対して、自分たちで考えたデザインを見せて、デザインに込めた思いを発表しました。

日の里西小では、各児童が考えたデザインをグループで説明しました【写真右上】。

日の里東小では、「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連させて考えたデザインについて、テーマごとに発表し【写真右中】、全体デザイン案【写真下】も披露されました。

